平成２８年度　委員会行政視察実施報告書

（視察箇所ごとに作成）

委 員 会 名	広報広聴委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎　〇松井幸夫　林　和明　山田英喜 成瀬　拓　松尾　卓　小坂井二郎　金子和夫 原　栄一

◎委員長、〇副委員長

１　上田市での課題と視察の目的

全国の地方議会においてＩＣＴを活用した議会活動が広がっている。また、議会だよりやホームページの構成など、市民に分かりやすい広報が重要視されるなか、上田市においても議会だよりの見にくさ（文字数が多いなど）など、市民の皆様からご意見をいただくことが多いことに加え、議会報告会の参加人数（特に自主的に参加してくれる方）が少ないことも大きな課題である。様々な地方議会の情報発信や広聴活動などの取組みを参考にする中で、市民により身近な議会を目指すため視察した。

２　実施概要

実 施 日 時		視 察 先	愛知県豊田市役所
平成 29 年 1 月 25 日（水） 13 時 40 分～15 時 40 分		担当部局	豊田市議会事務局
視察事業名	議会広報紙及びＩＣＴを活用した広報戦略、議会報告会（地域市議会報告会）について		
報 告 内 容	１　視察先の概要 ※（　）内は上田市 • 面積：918.32 平方 km　（552.04 平方 km） • 人口 422,780 人　（159,597 人） • 人口密度　444.82 人／平方 km　（284.38 人／平方 km） • すみよさ　：　総合 327 位　（124 位） • 成長力：　総合 44 位　（168 位） • 民力度：　総合 13 位　（161 位） • 自動車産業を中心とするものづくり産業の中枢都市であるとともに、市域の７割を森林が占める自然に恵まれた都市である。また、2015 年３月には「ラグビーワールドカップ 2019」の開催が決定し、周辺の基盤整備や外国人向け交流ツアーの実施など、おもてなし体制を構築し、国際都市としての更なる飛躍・発展を目指している。 ２　視察先の特徴 豊田市議会においては、市民への情報提供の充実を図る目的で、平		

成 23 年度以降、以下の取り組みを行ってきている。

- 地域市議会報告会の実施（平成 23 年 10 月～）
- 市民シンポジウムの実施（平成 23 年 11 月～）
- 市民意識調査の実施（平成 24 年 3 月）
- 市議会ホームページリニューアル（平成 24 年 4 月）
- 議場設備をデジタル化し、ＣＡＴＶの議会中継を鮮明な画像で放映（平成 25 年 12 月～）
- 議会だよりの表紙のカラー化（平成 27 年 5 月）
- 市議会ホームページ「代表・一般質問」の動画映像がスマートフォンでも閲覧可能に対応（平成 28 年 4 月）
- 議会だより音声読み上げ「声の広報」機能追加（平成 28 年 4 月）

３　視察事項について

今回の視察では主に議会広報紙と地域市議会報告会について視察を行った。

【議会広報紙】

定例会ごとに計５回の編集委員会を実施し、その中で、企画案の構成や掲載案件の検討から、一般質問など構成の確認を行う。

豊田市議会広報紙の特徴としては、一般質問の掲載文字数が議員一人につき 250 文字（上田市は 605 文字）で１ページに対して６人（上田市は３人）の議員の質問概要が掲載されており、全体的なページ数も少なく見やすくなっていることや、毎号１ページ目には市民の興味関心の高い情報（政務活動費や議会活動の説明など）をトップインフォメーションとしてわかりやすく掲載している。

表紙についても平成 28 年 12 月市議会版では、子供に鉄棒を教える内村航平選手の写真を大きく載せるなど、市民に関心を持ってもらえるような構成に心がけている。

このほか、とよた市議会だよりで留意している点は、行政ことばを避け、小学生でも読める内容にすることやスピード感のある情報発信に加え、タイムリーな情報は臨時号にて対応している。

また、「声の広報」として障がい者支援を行う NPO 法人が、委員会審査などを音声化し、それをホームページで聞けるように整備されているなど、先進的な取り組みも多い。

	ＩＣＴ活用については、豊田市議会としてもまだ研究段階とのことだが、議会棟においてインターネット環境を整備し、今回の議会事務局における視察の説明は、タブレットを活用していただいたおかげで、動画を視聴しながら大変わかりやすい視察となった。 【地域市議会報告会】 市民にわかりやすい開かれた議会を実現することを目標に、平成23年度から３月、９月定例会の報告を基本に年４回行われている。 参加者数の平均が１会場80人ほどとなっているが、議員による呼びかけなどで集まっている市民が多く、自主的に関心を持ち参加している方の割合はそこまで多くないなど、上田市と同じ課題を抱えている。 このほか、豊田市議会では地域市議会報告会に加え、基調講演とパネルディスカッションを基本とした市民シンポジウムを年１回開催している。年ごとにそれぞれの常任委員会が担当しており、平成27年度には「知ろう、愛そう、盛り上げよう！2019ラグビーワールドカップ」をテーマとし、元日本代表ラグビー選手の遠藤幸佑氏を講師として招いて開催したところ、計236名が参加し、若い方の参加も多かったという。 また、翌年には名古屋大学減災連携研究センター長の福和伸夫教授を講師にむかえ、「南海トラフ巨大地震に備える～未来のために、今はじめる～」をテーマとして開催して230名が参加している。 議員からの報告だけに限らず、スポーツ選手を招いた講演会や話題となっている事項や課題をテーマとしたパネルディスカッションなどを企画・開催することで、市民に関心を持ってもらうことにより、議会に対する理解を深めることにもつながっているように感じた。
考　察 （まとめ：市政に活かせ	上田市の議会報告会の開催においても、どのような形で広報し、参加者を増やすか、ということが課題となっている。豊田市の例では、市民シンポジウムなどを行っており、市民の関心を引く開催方法となっている。議会だよりにおいても全体的に見やすく関心を寄せられるよう工夫

ると思われる事項等）	された構成になっていると感じたことから、参考にし、より見やすくわかりやすい紙面となるよう努めたい。 　また、一般質問のインターネット配信なども効果的だと感じる。費用面も考慮しながら上田市議会でも導入していくべきか検討していく必要がある。 　今回の視察では豊田市のほかに岐阜県可児市や東京都町田市の取り組みも視察したことから、他の先進的な取り組みを参考にするとともに、総合的に勘案し今後の議会報告会の開催方法や議会だよりの構成などに活かしたい。

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成２８年度　委員会行政視察実施報告書

（視察箇所ごとに作成）

委 員 会 名	広報広聴委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎　〇松井幸夫　林　和明　山田英喜 成瀬　拓　松尾　卓　小坂井二郎　金子和夫 原　栄一

◎委員長、〇副委員長

１　上田市での課題と視察の目的

市民にわかりやすい議会だよりの内容や構成、また、議会報告会において参加人数が少ないことが大きな課題である。

岐阜県可児市では、議会だよりの見やすい紙面づくりの取り組み、ＩＣＴを活用した議会広報の取り組み、若者の政治への関心を高めるための大学との連携の取り組みや可児高校との「地域課題解決キャリア教育」の支援などの取り組みを行っており、こうした様々な取り組みを視察し、上田市でも進めている、市民に開かれ、市民の声が届く議会にする議会改革の参考としたい。

２　実施概要

実 施 日 時		視 察 先	岐阜県可児市
平成 29 年 1 月 26 日 13 時 00 分～15 時 00 分		担当部局	澤野伸　議長 議会事務局
視察事業名	議会報告会（意見交換会）及びＩＣＴを活用した広報戦略について		
報 告 内 容	１　視察先の概要 愛知県との県境という地理的条件から 1970 年代より市の西部を中心に人口が爆発的に増加し、名古屋市のベッドタウンとして発展した。 一方で長塚古墳や次郎兵衛塚一号墳などの古墳群、明智光秀（異説あり）や森成利（蘭丸）の生誕地、志野焼の発祥地などとしても知られており、歴史的な背景や遺産も多く有する。特に東部の丘陵地は現在も広く山林となっており、古くからの自然環境と新興都市としての側面を併せ持ったまちと言える。 可児市は一般に中濃地域に区分されるが、東濃地域とする場合もある。その他にも可児市と美濃加茂市、可児郡、加茂郡を可茂と呼称することも多い。近隣都市の中では多治見市に次いで人口が多い。しかし、中濃・可茂の枠組みでは歴史的流れから隣の美濃加茂市が中心都市として挙げられている。		

２　視察先の特徴

岐阜県可児市は平成 23 年２月に“議会改革のためのアンケート調査”を実施したところ、「市民の声が市議会に反映されていると感じている」と回答した割合は 6.4%という非常に厳しい結果となり、議会改革の必要性を強く感じ、市議会広報誌のリニューアルや予算決算委員会の設立、議会報告会の実施、ＩＣＴの活用など、様々な議会改革の取り組みを行っている。

３　視察事項について

（１）市議会広報誌

週刊誌のように手に取り見たくなるような議会だよりを目指し、あきる野市や寄居町への行政視察を行うなど調査研究を行い、下記の取り組みを行っている。市民からは見やすくなったとの声があり、効果を実感している。

- 名称の変更

  「議会だより」という固い名称から「議会のトビラ」と名称を変えた。

- フルカラー化

  これまで、市の広報誌と別の印刷業者による印刷を行っていたが、一つの業者にまとめて発注するように変更した結果、印刷単価が下がり、フルカラーでの印刷ができるようになった。

また、市の広報誌に折り込む手間が減ったことにより、経費削減にもなった。

- 表紙写真の選別

肖像権の問題など保育園に確認してもらった上で、子どもの写真や身近な活動の写真を掲載するようにしている。

（２）議会報告会

予算審議後の５月と決算審議後の１１月の２回開催している。主には下記の取り組みを行っている。

- 開催方式の変更

これまでは議員全員と参加者全員の対面方式で行っていたが、意見発言する人が固定化されてしまうという課題があり、議員２人ずつ分けてのグループミーティング方式に変更した。これにより多くの市民から意見をいただけるようになった。

- 広報誌「議会のトビラ」を用いて、報告・説明を行っている

議員により説明に差異が出ないように、議会広報誌である「議会のトビラ」に基づき報告・説明を行っている。これにより全議員が市民からの質問に答えられるように全て把握しておくという緊張感を持ち、議員の資質向上にもつながっている。

（３）ＩＣＴ活用

タブレットの導入は行っていないが、グループウェアの活用により、審議の効率化や動画配信による情報発信を行っている。

- グループウェアの活用

無料のグループウェアであるサイボウズライブを導入し、常任委員会や会派ごとにグループを作っている。審査において、事前に資料を確認することで、スムーズな審議が可能であるとともにペーパーレス化にもなる。また、議員で全ての情報を共有できるなどの利点がある。

議場へのＩＣＴ機器の持ち込みは議長の許可で可能だが、本会議中のネット接続などの不謹慎な行動がないように、必要な資料はあらかじめダウンロードすることで、ネット接続はオフラインで使用するように制限している。

- 議会の動画配信

本会議についてはケーブルテレビの生放送を映像データ化し、動画配信を行っている。委員会については委員会室に定点カメラを設置しており、その映像を編集し、動画配信を行っている。

（４）若者への支援

- 可児高校生徒の地域課題解決型キャリア教育支援

可児高校が求める大人と関わる機会と、議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向性が合致したことから開始した。キャリア教育についての研修会などを通じ、地域課題懇談会（高校生議会）を実施した。また、ＩＰＥ手法を活用した意見交換や地域課題懇談会なども実施している。

	地域課題懇談会でのアンケートでは「社会・政治・選挙がより身近に感じられるようになった」などの問いに「あてはまる」と回答する傾向が強くなり、参政意識の醸成につながってきたとの結果が出た。また、可児高校では模擬選挙も行い、平成28年の参議院選挙でも18～19歳の投票率が53%で、ほかと比べて高かったという結果も出ている。 • 大学との連携の取り組み 名城大学都市情報学部　昇秀樹 教授ゼミに参加し、地方自治や時事問題について意見交換を行い、知見を深めている。 また、議会報告会に昇秀樹 教授とゼミ所属大学生（10名程度） に参加してもらっており、ゼミへの参加が専門的知見の活用に繋がっている。
考　　察 （まとめ:市政に活かせると思われる事項等）	可児市では、議会広報誌、議会報告会、ＩＣＴ活用、若者のキャリア教育支援など多くの議会改革の取り組みを行っており、大変参考になることが多くあった。 懇談の中では「ＴＴＰ、良いものは徹（Ｔ）底（Ｔ）的にパクる（Ｐ）」など冗談を交えた発言があったが、市民にとって開かれた議会にし、市民に行政に関わりを持ってもらおうという積極的な姿勢が感じられた。 上田市議会広報広聴委員会でも、市民に開かれた議会づくりのため、今回の視察で参考になったことをしっかり議論し、検討を行い実現させたいと感じた。

※　視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成２８年度　委員会行政視察実施報告書

（視察箇所ごとに作成）

委 員 会 名	広報広聴委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎　〇松井幸夫　林　和明　山田英喜 成瀬　拓　松尾　卓　小坂井二郎　金子和夫 原　栄一

◎委員長、〇副委員長

１　上田市での課題と視察の目的

うえだ議会だよりを市民にとってより見やすくするため、紙面の構成などの検討を行っているが、他市における紙面構成や発行方法など、また、そのほかの情報発信の取り組みについて伺い、今後の取り組みの参考とするとともに検討材料とする。

２　実施概要

実 施 日 時		視 察 先	東京都町田市
平成 29 年 1 月 27 日（金） 9 時 00 分～11 時 00 分		担当部局	町田市議会事務局
視察事業名	議会広報誌及びＩＣＴを活用した広報戦略について		
報 告 内 容	１　視察先の概要 町田市は東京都の南端にあり、半島のように神奈川県に突き出てるように位置し、多摩丘陵の西部から中央部を占めている。 また、東京都で 9 番目に生まれた都市であり、古くから横浜へ向かう街道は「絹の道」とも呼ばれ、交通の要衝、商都として繁栄してきた。近隣からも多くの人が集まり、商圏人口 200 万人の一大商業都市へと発展している。 ２　視察先の特徴 町田市議会においては、平成 26 年度以降、議会活性化として、以下の取り組みを行ってきている。 • 議員及び職員の委員会室へのＰＣ持ち込み可を決定（平成 26 年 8 月～）（本会議場へのＰＣ持ち込みは試行中） • 市庁舎内ワンストップロビーでの本会議生中継及び傍聴を促す庁内放送の開始（平成 27 年 2 月～） • スマートフォンでの議会中継の視聴及びホームページで声の議会だよりを開始（平成 27 年 3 月～） • 「市議会を開きます」ポスターを市内民間路線バスに掲出（平成 27 年 5 月～） • 傍聴者への閲覧資料設置（平成 27 年 6 月～）		

	• 手話通訳者、要約筆記者の派遣（平成 28 年 4 月～） • 市議会だよりの「ＴＡＭＡebooks」への掲載（平成 28 年 4 月～） • 市議会だよりのスーパーへの設置を開始（平成 28 年 7 月～） （従来は、ＪＲや私鉄の駅、郵便局、農協、大学に設置していたが、計 83 箇所、1,455 部を設置することとなる。） • インターネット中継画面に、議案などのＰＤＦファイルを表示（平成 28 年 9 月～） • 市議会だよりの「マチイロ」（スマートフォン・タブレット用アプリ）への掲載を開始（平成 28 年 9 月～） • タブレットの議会導入を決定（平成 28 年 11 月） ３　視察事項について • 見やすい紙面づくりの取り組みについて • 発行方法（紙ベース、電子書籍形式その他）について • その他議会の情報発信の取り組みについて
考　察 （まとめ:市政に活かせると思われる事項等）	上田市の場合、現在、議会だよりはＡ４判で発行を行っているが、紙面レイアウトなどに改善の余地があり、日頃から改善に向けて研究を行っている。 今回視察を行った町田市では他市と違い、大きなタブロイド判での発行を行っている。この形式での発行は、従来のＡ４判の紙面と異なり１ページ当たりの面積が大きいことから、新聞などと同様に非常に情報量が多いことがメリットと感じる。一方、上田市議会で発行しているＡ４判の場合は、特に多く目にすることとなる高齢者世代の方からは、文字が小さく見づらいという意見を多くいただくことが多い。 また、配布方法として新聞折り込みで 124,526 部を配布しているとのことだが、町田市内のスーパー商店などで拠点配布しているというのも参考になった部分である。市内を拠点とするスーパー19 店舗に 30 部ずつ設置し、駅拠点配布なども行い、設置を行った議会報がほとんど無くなってしまうとの説明があった。これは、市民の方が日頃利用する場所で配布することは、多くの方の目につきやすく、手に取ってもらいやすいといったメリットを感じた。

	また、議会情報の発信はホームページなどのＷＥＢ上から積極的に配信を行い、音声情報、点字、電子書籍形式なども行っているとのことである。議会報についても、「マチイロ」というスマートフォン向けアプリを通じて配信を行い、ＩＣＴも積極的に活用した様々な手段を用いて情報発信を行っている。今後、Twitter などのＳＮＳもソーシャルメディア活用ガイドライン及びソーシャルメディア運用ポリシーを策定したことから、年度内の利用開始をめざして、手続きを進めているとのことである。 そして、視察を行った際一番印象に残ったのは、実際にタブレット端末の操作を行い、動作の様子を確認できたことであった。 これは、議員一人につき１台ずつ配布がされているとのことで、その日の資料を電子データとして画面上で確認できるようになっており、資料などの印刷コストが大幅に削減できたということである。こういった取り組みを導入することで資料の印刷や検索の手間、持ち運びなど大幅に効率が上がると思われる。今後、上田市議会でも導入方法、運用方法を十分に検討し、導入の是非を判断していくべきと感じた。

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成２８年度　委員会行政視察実施報告書

（視察箇所ごとに作成）

委 員 会 名	広報広聴委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎　〇松井幸夫　林　和明　山田英喜 成瀬　拓　松尾　卓　小坂井二郎　金子和夫 原　栄一

◎委員長、〇副委員長

１　上田市での課題と視察の目的

市民とって読みやすく、わかりやすい議会だよりが求められているなか、紙面の内容や構成など他市町村の議会だよりに数多く関わっている経験からより見やすくい紙面の構成や文字の配置などを学び、また、上田市ではまだ行われていないが、一般質問や委員会審査をネットにより動画配信する際のシステム、予算及び課題についての調査研究を行った。

２　実施概要

実 施 日 時	視 察 先	株式会社会議録センター 本社（埼玉県鴻巣市）
平成 29 年 1 月 27 日（金） 14 時 45 分～16 時 45 分	担当部局	編集課（議会だより編集） 営業課(議会映像インターネット配信)

視察事業名	議会広報紙及びＩＣＴを活用した広報戦略について
報 告 内 容	１　視察先の概要 全国市町村議会を中心とした約 300 団体や国･県などの公共団体の会議録作成業務、議会広報紙などの編集業務に加え、議会録やファイル検索、議会映像インターネット配信などを行う「Discuss シリーズ」の委託・販売を手掛けている。 ２　視察先の特徴 • 議会録を音源から文字に起こし、印刷、製本まで社内で一貫して作成する体制が構築されており、セキュリティの確保に努めている。音源の保存は大型の金庫のような保管庫に収蔵されている。 • 国や県と全国の市町村議会から信頼され、３００を超える公共団体と取り引きされている。 • 全国導入実績 No.1 といわれる「Discuss シリーズ」(NTT アドバンステクノロジー株式会社）の代理店である。 ３　視察事項について （１）議会だよりの構成・編集について 実際に発行された上田市議会だよりを基に、これまで以上に市

	民が手に取って読んでいただけて、内容が伝わる紙面づくりについて、例を示してテクニックを解説いただいた。 （２） 議会映像インターネット配信システムについて 市のホームページ上から予算や決算などの情報や一般質問の動画をワンクリックで自動的に視聴できるというもので、ホームページから見たいコンテンツが容易に見つけ出すことができる構成になっていることが前提である。 見る側でパソコンなどに保存することができないことや NTT データセンターよりクラウドサービスを提供されているなどセキュリティの安全性が確保されている。 配信するための初期費用として約 100 万円、運用のための費用として約 100 万円/月が概算されるとのこと。
考　　察 （まとめ：市政に活かせると思われる事項等）	1　議会だよりについて ①　表紙は見出しを大きく、おおきな写真で人物の表情を見せる。また、余白を作ってすっきりとした印象を持ってもらえるように工夫する。 ②　文字ばかりにならないようにし表を用いると、項目と数字が目に入りやすくなり、スペースが確保できる。 紙面を読むから見るに転換していくなど、とても参考になった。今後の紙面づくりに反映させていきたい。 また、議会だより作成のコンサルティングを行っているのでこれを活用していくという選択も可能である。 議会としての報告は重要だが費用対効果についての検証が必要と考え、さらに市民からの意見や要望を踏まえた議会だよりとなるよう今後も研究していく。

２　議会映像インターネット配信システムについて

①　どのようなシステムを選択すべきなのか基本的な考えた方や方針について明確にする必要があると考え、引き続き様々なシステムの研究が必要である。

②　議会映像インターネット配信システムの整備にはかなりの予算が必要となることや市庁舎建て替えの検討もされていることから、新庁舎建設時に整備すべきと考える。

③　行政や議会のＩＣＴは必須となることを踏まえて、誰もがホームページから必要な情報にアクセスできる環境を整備するという視点から、ホームページに求められる構成やコンテンツについて研究していく必要があると考える。

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと